

語学研修終了報告書

報告年月日 2019 年 9 月 26 日

留学プログラム名	TASTE 海外短期語学学習
所属学院等 (学院/類/学部/研究科)	生命理工
所属系・コース等 (系・コース/学科/専攻)	生命理工
留学時の学年	学士 3年
留学先国	オーストラリア
留学先大学	クイーンズランド大学
プログラム期間	2019年8月19日～2019年9月20日

留学報告書

①私は、TASTE プログラムでクイーンズランド大学に5週間留学した。TASTE 海外短期語学学習は、対象校が実施する短期間(2～5週間程度)の語学研修に参加する者に対して経済的支援や手続き支援、単位付与を行うものである。クイーンズランド大学は、オーストラリアクイーンズランド州ブリスベン、セントルシア地区に本部キャンパスを持つ州内で最長の歴史を持つ大学で、クイーンズランド州で最も権威ある大学であり、オーストラリア国内でもトップクラスの生徒が全土から集まることで知られる。オーストラリア国内で、常に5本の指に入る名門大学で、研究を重視するオーストラリアの大学連合“Group of Eight”、国際的な大学提携 Universitas 21 研究機構のメンバーであり、ノーベル賞受賞者も輩出している。

②私は、クイーンズランド大学の ICTE の General English というコースを選択した。授業内容は、英語全般の能力向上を図るもので、grammar, vocabulary, reading, writing, listening, speaking となっている。私のクラスは、午前が開講されていて、30分休憩をはさんで、朝8:15～昼12:45という4時間授業が平日5日間で行われる。初日にオリエンテーションとプレースメントテストが実施され、プレースメントテストの結果でクラスのレベル分けがなされる。私は TOEFL ITP のスコアが510点であったが、レベル分けテストでは、一番上のレベルの General English 6 というクラスになった。恐らく自分の英語力を正確に測ればレベル5が妥当であったと思う。GE6は周りの生徒のレベルは非常に高く、テキストも授業内容もとても難しく、先生の説明もかなり速く、初めの2週間くらいは、授業についていくための予習、復習が非常に苦しかった。私は渡航までに単語帳(私が使ったのは『東大英単語熟語 鉄壁』だった)を一通り頭に入れなおしたが、テキストに載っている文章や、リスニングで聞く素材は、そのよう

な知識ではカバーできないほど単語のレベルが高かった。家での予習、復習は、基本的にはずっとスマホで英英辞典と向かい合っていた。毎日3~4時間程度は家の机に座って勉強することになっていた。せっかく留学してるんだからもっと外で遊んだほうが良いのかもしれない。ただ、私のように英語力が足りない場合は、そうするしかなかった。授業の始めには前日、もしくは先週新しく習った単語の復習クイズがあるのだが、基本的にはグループに分かれてのチーム戦となるため、自分が単語を知らなければ、チームみんなに迷惑が掛かってしまうからだ。このような復習クイズから始まる授業だが、具体的な他の内容は、大方がグループワーク、もしくはペアワークで、readingなら書かれていることに関して（大体が社会問題について）、グループでディスカッションをしたり、ペアでその内容を確認したりする。Listeningなら聞いたことに関して、同じようなことをする。Writingでは、フォーマルな表現と、インフォーマルな表現の違いについて、深く学び、ガイドブックを書いたり、エッセイを書いたりした。また、ペアで、ある事柄（有名な建造物や、オーストラリアで有名なイベントなど）について調べて、クラスメイトにプレゼンをしたりもした。初めは、英語だけで4時間はなかなかしんどいと思っていたが、4時間の中で色々なことをするため、そんなに苦痛は感じなかった。むしろ、慣れてきたら、「英語の授業」という感覚は無くなり、「Readingの授業」や、「Writingの授業」というような感覚になり、1日4時間しか授業が無いのは、とても短く感じるようになっていた。あと、クラスの雰囲気だが、私のクラス、GE6-goldは日本人が10人ほど、韓国人2人、中国人1人、タイ人2人で構成されていて、みんながとても仲が良く、授業前や、休み時間でもみんなで英語でコミュニケーションをとっていた。他のクラスは、授業以外の時間は日本人同士で日本語で会話していたと思うが、私のクラスは、日本人同士でも英語で話していた。初めは日本語で話したいと思っていたが、英語で話す機会が多ければ多いほど話せるようになると思うので、とてもいい雰囲気、習慣だったと思う。おかげで外国人のクラスメイトとも仲良くなることができ、今でもSNSでやりとりしている。

③勉強以外の活動は、先ほど述べたように、平日はあまり時間が取れず、シティで買い物するくらいしかできななかったが、ブリスベンは、特に楽しめる場所もあまりないので、家で勉強したり、ホストファミリーとコミュニケーションをとるくらいで十分かもしれない。土日は4回ともしっかり遊んでリフレッシュした。行ったところは、ゴールドコースト（1泊）、ローンパイン（動物園）、マーケット、サウスバンク（ブリスベン川沿いにある綺麗な街）、シドニー（2泊）。シドニー以外は全てブリスベンにあるが、そんなに思い出に残るほど楽しかったかは分からない。今思い返しても、今回のオーストラリアでの旅で楽しかった思い出は、シドニーでのものばかりである。

④今回の留学で学んだことは計り知れない。まず、私は自分の英語力に不相応なハイレベルのクラスで学ぶことになったが、これは国内では出来ない貴重な経験だったと思う。授業開始後2週間くらいは授業が苦痛で、自分の不運を嘆いていたが、終わってみれば自分とはとてつもなく幸運だったと強く思う。周りの多くの生徒はネイティブのようにすらすらと素晴らしい発音で話していたが、中には海外での生活経験がほとんどない人もいて、そのような人でもしっかり学べば

すらすらと言いたいことが英語で話せる、ということが分かったし、その域に達したいと強く思った。また、自分は将来、海外の会社で働くことも視野に入れているが、ビジネスの場において、自分が日本人だから流暢に話せないなどとは言われていられないし、自分が上手く話せないためにとてつもなく大きなチャンスを逃すかもしれない。恐らくそのようなときに相手になるのは、ネイティブか、今回のクラスメイトのようなネイティブのように流暢に話す人だと思う。このように、自分がビジネスの場に行くまでにどれほどのレベルに到達している必要があるのかを、実際に肌で感じることができ、大きな刺激が受けられたのは大きな収穫だったと思う。本当に自分には時間があまりなく、英語をこれからも高いレベルを目指しながら学び続けなければならないと気づかせてもらった。確かに、今回の留学では、結構な時間を英語の勉強に費やし、英語力が伸びたのも感じるが、私が学んだ最も大きなことはそのようなことだったと思う。この学んだことをどのように活かすか。それはもう決めている。幸い私は卒業に必要な単位はほとんど取り終えていて、授業がほとんどないので、今から日本で英語を約半年間、英会話にも通いつつちゃんと勉強する。それでもし結果が出ればそれを続ければ良いし、もし思うような進歩を感じられなければ、修士で長期の留学に行こうと考えている。私の夢は、日本の素晴らしさを世界に見せつけることであり、世界の場で活躍できないとそれは叶わない。自分の夢から逆算して、最も良い選択をしていきたいと思っている。今回の留学は、自分の夢への道を大きく軌道修正してくれたと感じている。

⑤留学情報の入手は、留学情報館の一ノ瀬さんに聞いたのと、留学先の大学のホームページを見た。航空券、ビザは自分でネットでとった。語学の勉強は英単語の確認だけしてから行った。

⑥留学費用は詳しく覚えていないが、合計で AUD\$4030(約¥30 万)払った。

⑦私はホームステイをした。大学に申し込めば全てやってくれる。通常はルームメイトは違う国籍の人にするようだが、この時期は日本人がとても多く、私のルームメイトは日本人だった。家はとても広く設備も良かったが、とても田舎で、学校まで1時間程かかり、また、最寄りのバスが平日は30分に一本、休日は1時間に一本しかなかったのは不便に感じた。

⑧ブリスベンは昼夜の寒暖の差が激しく、昼は30℃を超えるのに、早朝は10℃ほどまで冷え込むため、脱ぎ着できるパーカーや上着を多めに持っていき、一番下は半袖Tシャツが良いと思う。あと、空気の乾燥には苦しんだ。周りの日本人も苦しんでいた。私は薬局でニベアクリームを買って対処していたが、周りの人もボディクリームやリップクリームなどを使用していた。薬局はたくさんあるから日本から持っていく必要はないと思う。

⑨留学を希望する後輩へアドバイス

Don't put off until tomorrow what you can do today.

英語のことわざで、意味は、**If you need to do something, don't postpone it, just do it now.**

まずこの報告書を読んでもらう時点で、あなたは英語力向上を希望していて、留学に興味を持ってい

と思う。留学できる機会なんて在学中くらいしかないかもしれない。もし、英語力をつけたくて、いつ留学しようか考えてるなら、なるべく早く留学してみることを強く勧める。行けば分かる。自分の中の世界が広がる。